

令和7年度 第1回 学校運営協議会 議事録

校 名	大阪府立淀川工科高等学校
校 長 名	西尾 典之
出席者(委員)	川田会長、橋本委員、大西委員、辻井委員
出席者(学校)	西尾校長、向山教頭、福井事務長、齋藤首席、前原首席 他10名
傍 聴 者	なし
協 議 資 料	令和7年度 学校経営計画 他各分掌、各科・系からの報告等
備 考	

議題等(次第順)
➤ 令和10年度以降の入学者選抜に係る学校特色枠の設定 ➤ 令和8年度 使用教科書の選定・採択 ➤ 令和7年度 学校経営計画 ➤ 令和7年度 各分掌の取り組み状況 ➤ 令和7年度 各科・系の取り組み状況
協議内容・承認事項等(意見の概要)
(1) 令和10年度以降の入学者選抜に係る学校特色枠の設定について Q：特色枠の生徒も5教科の学力検査を必ず受けなければならないのか。 A：学校特色枠は合格者決定の第1手順として設定される。したがって、特色枠での受験であっても、学力検査は必ず受けなければならない。 Q：他校では、募集割合をどれくらいにしているのか。 A：低いところでは10%である。現時点で工業系高校の最大は40%程度だと聞いている。 Q：エントリーシートは、淀工独自のフォーマットで作成されるのか。 A：エントリーシートを使用する場合は、教育庁が指定している書式となる。 Q：教育庁提出後であっても選抜方法等の変更は可能か。 A：現在の中学1年生が入試に向けて準備できるようにするための期間が必要であり、提出後に教育庁のチェックが入ると思う。その後は令和10年度入試を迎えるまで変更はできないと聞いている。令和11年度入試からも大きく変更することはできないが、例えば特色枠の募集割合やエントリーシートの配点を若干変更するなどの「軽微な変更」であれば教育庁と協議の上、変更することができる可能性がある。 学力検査のA問題・B問題・C問題の変更は可能である。 Q：第2志望校まで書けるとなっているが、例えば第1志望に淀工・大学進学専科、第2志望に淀工・総合募集の課程と書くと、これで「2校」としてカウントされないか。 A：これについては、教育庁に確認していく。 Q：社会に出て働く上で、5教科がすべての基本となるということを考えると、「一部秀でたところ」だけを

見て合格者を出すのには不安がある。総合募集の特色枠にも「数学」を入れてはどうか。

A：勉強が苦手な生徒も確かにいるが、まずはものづくりに興味がある子たちに入学してもらって、大切に育てていきたいと考えている。高校を卒業後、理工系の大学に進学して学んでいくためにも必要であるので、大学進学専科の特色枠の中に「数学」を入れている。

Q：特色枠で受験する場合は、申請をするのか。

A：希望する場合は申請をする。

Q：特色枠で受験をして、アドミッションポリシー等の内容に合致しない場合はどうなるのか。

A：合致しない場合はエントリーシート、調査書を総合的に判断して、「不合格」となる。その場合は、第2手順である5教科(学力検査)と調査書の総合点を利用することになる。

Q：エントリーシートで比較をするのが難しいのではないのか。

A：詳細は検討中である。例えば、初めにエントリーシート、調査書の指定した教科の総合点を活用して評価を行い、同点者が出た場合はエントリーシートの詳細で合否を決定するということも考えている。中学校時代にやるべきことをきっちりやって形にできる生徒を高校で育てたいと考えているので、結果が形として出やすいものを評価の材料として活用したい。

Q：該当するアドミッションポリシーについて、大学進学専科ではPBLの内容も入れるといい。大学進学専科では、PBLがカリキュラムとして入っていないのか。

A：現在は入っていない。令和8年度以降の入学生からカリキュラム変更をする方向で検討中である。

Q：他校では、実技を入れるという学校もあるみたいだが…。

A：検討している学校もあるが、解決するべき課題も残っており、検討・模索している様子である。
実技については、中学校の学習指導要領の内容に則って課題を各校で作成しなければならない。
また、それに使う道具も各校で準備をする必要がある。

⇒令和10年度以降の入学者選抜に係る学校特色枠について、了承される。

(2) 令和8年度 使用教科書の選定・採択について

Q：「深化」と「接続」について、カリキュラム表は公開されているのか。

A：学校ホームページで公開している。

Q：「深化」と「接続」についてもう少し説明をして欲しい。

A：「深化」とは、専門性をより深めて就職等に対応するものである。「接続」とは各系の専門科目の一部を数学などの普通科科目に置き換えて、大学進学など高等教育機関への接続を図るものである。

⇒令和8年度 使用教科書の選定・採択について、了承される。

(3) 学校経営計画や取り組み状況について

Q：学校見学会の見学者の人数は増えたのか。

A：昨年の見学会はクラブ見学の機会を増やした。一方で、教員の負担が多くなったので、できるだけ教員の負担が減るように工夫した。見学希望者数自体は例年と大きく変わっていない。

Q：大学進学専科はどこも定員割れしているのか。

A：定員割れしている。他校は本校よりも割れている状況である。

Q：大学進学専科の生徒で就職希望者が増えたのは、求人が多くなってきているせいかな。

A：その影響も大きい。また、当初は進学をめざしていたが、学年が上がるにつれて就職に希望を変更する生徒も増えている。

Q：英検をPCで受けることについて、そのたび受験料を払う必要があるのか。

A：払わないといけないが、これまでの受験料と比べて約半額になっている。

試験の方法も変更になり、筆記試験と面接試験を2日に分けてやる必要もなく、1日で受験ができる。

また、パソコンを活用してスピーキングのテストをやるので、対面式の時のように緊張しなくてよいなど受験しやすい形になっているので希望者が増えている。

次回の会議日程

日時：令和7年11月（予定）

場所：府立淀川工科高等学校 記念会館1階（予定）